

科目名	助産論Ⅳ(周産期ハイリスクケア) Midwifery Ⅳ		担当教員 (研究室番号)	岩田 朋美 (101) 渡邊 聡子 (102) 大平 肇子 (104) 杉山 泰子 (103) 市川 陽子 (105) 辻 まどか (105) 朝倉 徹夫 (非常勤)		教員への連絡方法 (メールアドレス)						
履修年次	4年次前期	科目区分	専門科目・生涯看護学		選択区分	自由	単位数 (時間)	1(15)	授業形態	演習	科目等履修生	否
											オプションクラス	否
科目目的	周産期におけるハイリスク状態にある対象者への支援を理解し、助産実践に必要な基本的技術を修得する。また、周産期医療におけるリスクマネジメントの基本について理解し、助産業務の評価・調整に必要な基礎的知識を修得する。											
ディプロマ・ポリシー (DP)	主要なDP	E 地域社会に暮らす人々の生活支援において必要となる情報を分析し、健康課題を解決するための方策を考えることができる。(思考・判断)										
	関連するDP	D 様々な職種との連携において、看護専門職者としての役割を理解し、多職種による 協働活動に参加できる。(技能・表現)										
到達目標	1. 周産期のハイリスク状態にある対象者のアセスメントができ、助産ケアについて説明することができる。 2. 産科救急対応における助産実践について説明することができる。 3. 産科手術および産科的医療処置とその助産ケアについて説明することができる。 4. 周産期の心理・社会的ハイリスク対象者への支援について説明することができる。 5. 周産期医療におけるリスクマネジメントについて説明することができる。											
成績評価方法 (基準)		筆記試験 (50%)、演習課題 (30%)、演習への取り組み (20%)										
再試験の有無と基準等		無：複数回の筆記試験・演習課題および演習への取り組みにより評価するため、科目の合否結果で不合格となった場合、再試験は実施しない。										
教科書		助産学講座Ⅰ・6～8・10 (医学書院) 助産業務ガイドライン2024 (日本助産師会出版) 新版 助産師業務要覧 第4版 Ⅰ基礎編・Ⅱ実践編 (日本看護協会出版会) 助産師のためのフィジカルイグザミネーション 第2版 (医学書院)										
参考書等		助産学講座2～4・9、助産師基礎教育テキスト第1巻～第7巻 (日本看護協会出版会) 新版 助産師業務要覧 第4版 Ⅲアドバンス編 (日本看護協会出版会)										
学生の主体性を伸ばすための教育方法と学生への期待		周産期を取り巻く環境・状況は変化しており、助産師が周産期ハイリスクケアに関わる機会は増加しています。また、助産師には、周産期における助産実践の質向上と安全の保証が求められています。周産期ハイリスクケアにおける助産師の役割を理解し助産実践につなげられるよう、積極的な姿勢で授業および演習課題に取り組むことを期待します。										
備考		助産師国家試験受験資格取得のための必須科目です。助産論Ⅰ・Ⅱの単位を修得していることが履修の前提となります。3年次の終了時までに修得すべき授業科目の単位をすべて修得していなければ履修することはできません。										
回	学習項目				学習内容				主担当教員	授業方法		
1回	ハイリスク・異常分娩時の支援				ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと産婦への支援について学ぶ。 緊急時の対応について学ぶ。				岩田	講義		
2回	心理・社会的ハイリスク対象者への支援				周産期のメンタルヘルスについて学ぶ。 心理・社会的なハイリスク状態にある妊産婦と家族への支援について学ぶ。				岩田	講義		
3回	妊娠期の異常と対応の実際				妊娠期の異常発生時における助産実践について学ぶ。 ・シミュレーション演習				岩田 他	演習		
4回	分娩期の異常と対応の実際①				分娩期の異常発生時における助産実践について学ぶ。 ・シミュレーション演習				岩田 他	演習		
5回	分娩期の異常と対応の実際②				分娩期の異常発生時における助産実践について学ぶ。 ・シミュレーション演習				岩田 他	演習		
6回	周産期医療におけるリスクマネジメント				助産業務を遂行するために必要な法律・制度、周産期医療におけるリスクマネジメントの必要性と医療安全への取り組みについて学ぶ。また、産科医療事故の事例を通して、助産師として医療事故防止のための管理のあり方について学ぶ。				渡邊	講義		
7回	産科手術および産科的医療処置の実際①				産科手術および産科的医療処置に必要な知識・技術について学ぶ。				朝倉	演習		
8回	産科手術および産科的医療処置の実際②				産科手術および産科的医療処置の実際を学ぶ。。				朝倉	演習		

学 習 課 題	
第1回(事前) :	分娩期に起こりうる異常およびハイリスク状態にある産婦への支援について自己学習する。
第2回(事前) :	今までに学習した心理・社会的ハイリスク妊産婦の特徴と看護について振り返り、疑問点を明らかにし、参考書や文献を用いて自己学習する。
第3回(事前) :	事例(妊婦)をアセスメントし、必要な支援について具体的に記述する。 シミュレーションに必要な知識・技術について学習し、理解する。

- 第3回（事後）：課題レポートを作成し、事前学習とともに期日までに提出する。〔配点10%〕
- 第4回（事前）：事例（産婦）をアセスメントし、必要な支援について具体的に記述する。
シミュレーションに必要な知識・技術について学習し、理解する。
- 第4回（事後）：課題レポートを作成し、事前学習とともに期日までに提出する。〔配点10%〕
- 第5回（事前）：事例（産婦）をアセスメントし、必要な支援について具体的に記述する。
シミュレーションに必要な知識・技術について学習し、理解する。
- 第5回（事後）：課題レポートを作成し、事前学習とともに期日までに提出する。〔配点10%〕
- 第6回（事前）：産科医療事故の事例（配布資料）を読み、所定の記録用紙に各自の意見・考えを記述する。
- 第6回（事後）：WebClassの小テストを受けて、知識を確認する。
- 第7・8回（事前）：産科手術および産科的医療処置について自己学習する。

実務経験を活かした教育の取組

担当教員全員は、看護職として実務経験がある。看護の実践及び教育・研究活動を行っており、その経験を活かして本授業の講義及び演習を行う。また、非常勤講師は、産婦人科医師として実務に携わっており、医学・看護学の実践及び教育・研究活動の経験を活かして本授業の演習を行う。